

お茶(さやまかおり)

情報提供：愛知県新城市在住 F様 (42694) 2009年3月13日

前年に比べ収穫量が約10%増収になり、農薬の散布回数が減りました。  
新芽の葉肉が厚くなり色つやも良く、まろやかで美味しいお茶ができました。

**特長**

- 収穫量が前年に比べ約10%増収しました。
- 農協で指導している年間標準農薬散布回数は12回ですが、スーパーERを使用することにより8回まで減らすことができました。また、農薬の散布回数を減らしても病気等の発症が少なくなりました。
- 新芽の葉肉が厚くなり、色つやが以前と比べて良くなり、味がまろやかになりました。
- スーパーERで発酵させた有機発酵肥料を施肥することにより、土が柔らかくなり、ミミズが増えました。

**栽培地状況**

- 2008年3月よりスーパーERの葉面散布を始めました。
- 10年程前より有機発酵肥料を使用していたところに加え、2年前よりスーパーERで発酵させた有機発酵肥料を使用しています。
- 全栽培面積1.7ヘクタールの内、粉末緑茶用の15アールにスーパーERを使用しています。

**施用状況**

＜2008年～＞ 10アール当たり

		日付	希釈倍率	施用量
作物への散布	1回目	3/ 6	1500倍	200ℓ
	2回目	3/ 28		
	3回目	4/ 10		
収穫時期		5/ 2 ~ 5/ 20		

**生産者の声**

- 茶葉を挽いて作る粉末緑茶は茶葉全部を飲むことになるので、引き続きスーパーERを使用して、更なる農薬使用量の減少を目標にし、安心安全なお茶作りを目指していきます。
- 現在は、粉末緑茶用のみにスーパーERを使用していますが、今後は深むし茶用にも使用していきたいと思っています。

**◆ご使用にあたってのポイント**

- ・ 今回の結果はスーパーERを使用する事により、肥料の分解と植物の活性が促進され、栄養分の吸収力が高まったと考えられます。その為、好結果が出た後の土壌中の肥料分は多量に消費されておりますので、来年度の土壌への施肥は充分に行う必要があります。
- ・ スーパーERの過剰使用は一時的に良い結果が現れますが、後に何らかの弊害が出る可能性もありますので、施用方法に従い使用をしてください。
- ・ スーパーERの使用で、土壌の微生物の環境が整い、微生物が定着することにより、地温が上昇し作物の生長促進がみられる場合があります。
- ・ これらの現象は、農薬等の作用とは全く異なるもので土壌環境等の調整であり、スーパーERは農薬でも特定農薬でもありません。